

九電グループ概要

九電グループの理念、グループ経営ビジョンに加え、近年の財務データや電力供給設備についてご紹介します。

7-1 「九電グループの思い」（九電グループの理念）

ずっと先まで、明るくしたい。

「快適で、そして環境にやさしい」
そんな毎日を子どもたちの未来につなげていきたい。
それが、私たち九電グループの思いです。

この思いの実現に向けて、私たちは次の4つに挑戦しつづけます。

1 地球にやさしいエネルギーをいつまでも、しっかりと

私たちは、お客さまに毎日の生活を安心して送っていただけるよう、エネルギーや環境に関する豊富な技術や経験をもとに、世の中の動きを先取りしながら、地球にやさしいエネルギーをいつまでも、しっかりとお届けしていきます。

2 「なるほど」と実感していただくために

私たちは、お客さまの信頼を第一に、さまざまな声や思いをきっちりと受け止め、お客さまに楽しさや感動をもって「なるほど」と実感していただけるようなサービスでお応えしていきます。

3 九州とともに。そしてアジア、世界へ

私たちは、九州の皆さまとともに、子どもたちの未来や豊かな地域社会を考え、行動していきます。そして、その先に、アジアや世界をみます。

4 語り合う中から、答えを見出し、行動を

私たちは、人間の持つ可能性を信じ、個性を尊重し合い、自由・活発に語り合う中から、明日につながる答えを見出し、行動していきます。

7 九電グループ概要

7-2 九電グループ経営ビジョン2030（2019～30年度）

九電グループ経営ビジョン2030の
詳しい内容は、九州電力のホーム
ページをご覧ください

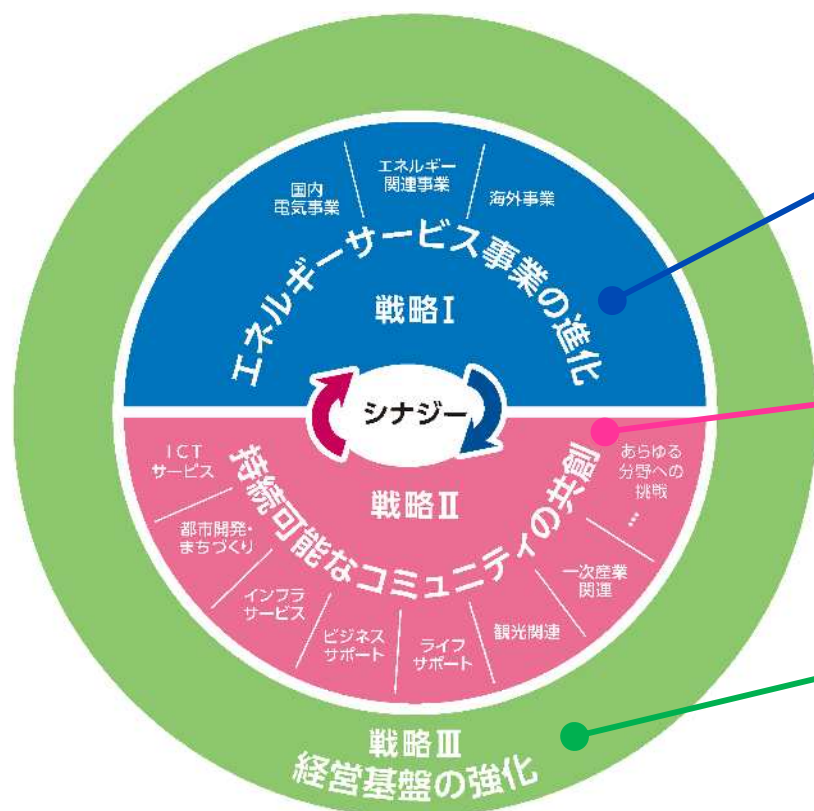
- 九電グループが事業活動を通じて、基盤である九州の持続的発展に貢献し、地域・社会とともに将来にわたって成長していくために、長期的な視点に立った経営の方向性として、「九電グループ経営ビジョン2030」を策定しました

〔2030年のありたい姿〕

九州から未来を創る九電グループ

～豊かさで快適さで、お客さまの一番に～

〔ありたい姿実現に向けた戦略〕



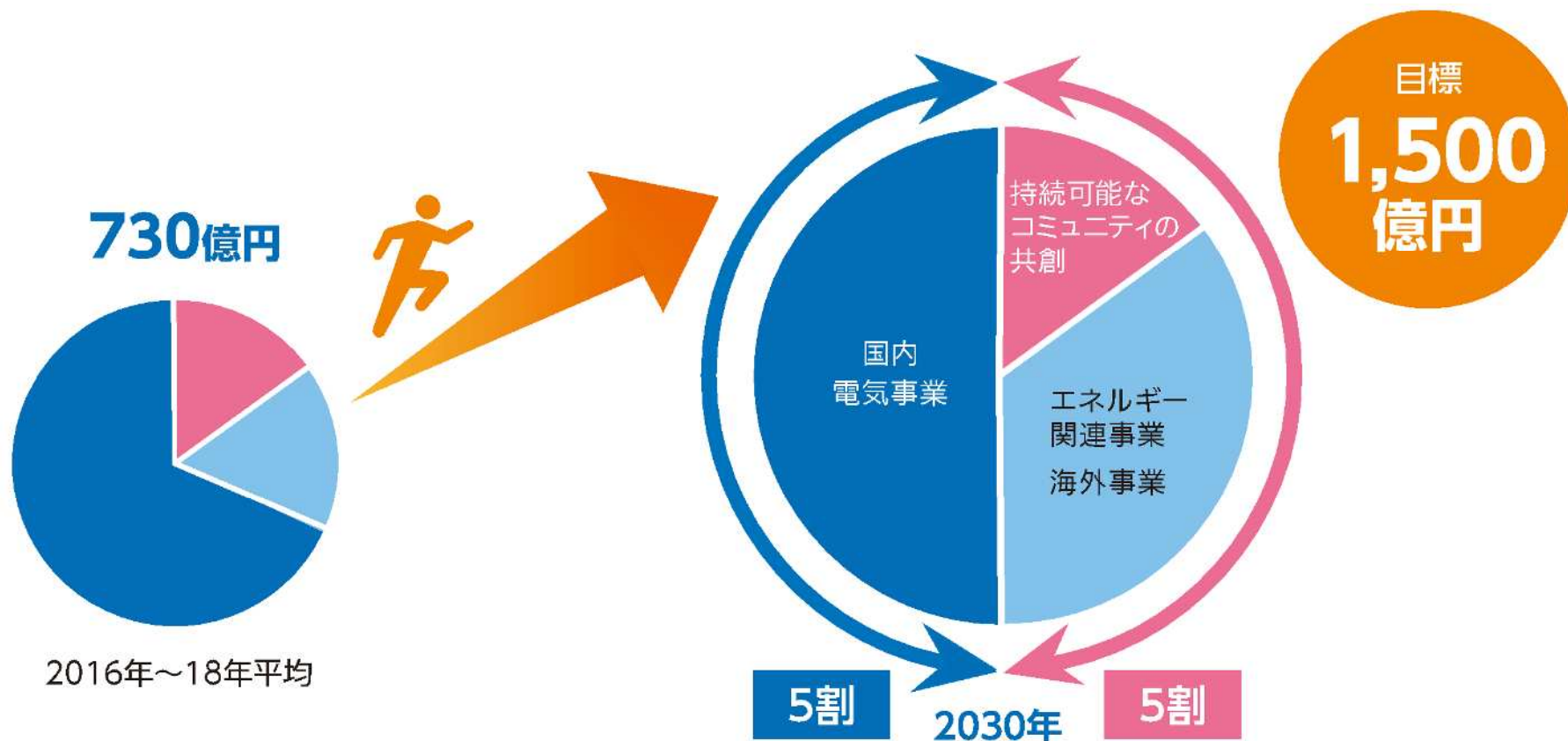
戦略Ⅰ	エネルギーサービス事業の進化
<ul style="list-style-type: none">低炭素で持続可能な社会の実現に挑戦し、より豊かで、より快適な生活をお届けします。	
戦略Ⅱ	持続可能なコミュニティの共創
<ul style="list-style-type: none">九州各県の地場企業として、新たな事業・サービスによる市場の創出を通じて、地域・社会とともに発展していきます。	
戦略Ⅲ	経営基盤の強化
<ul style="list-style-type: none">経営を支える基盤の強化を図り、九電グループ一体となって挑戦し、成長し続けます。	

7 九電グループ概要

7-2① 九電グループ経営ビジョン2030における経営目標（連結経常利益）

九電グループ経営ビジョン2030の
詳しい内容は、九州電力のホーム
ページをご覧ください

- グループ一体となってありたい姿実現に向けた戦略を推進し、2030年の連結経常利益1,500億円（国内電気事業5割、その他5割）を目指します



〔株主還元について〕

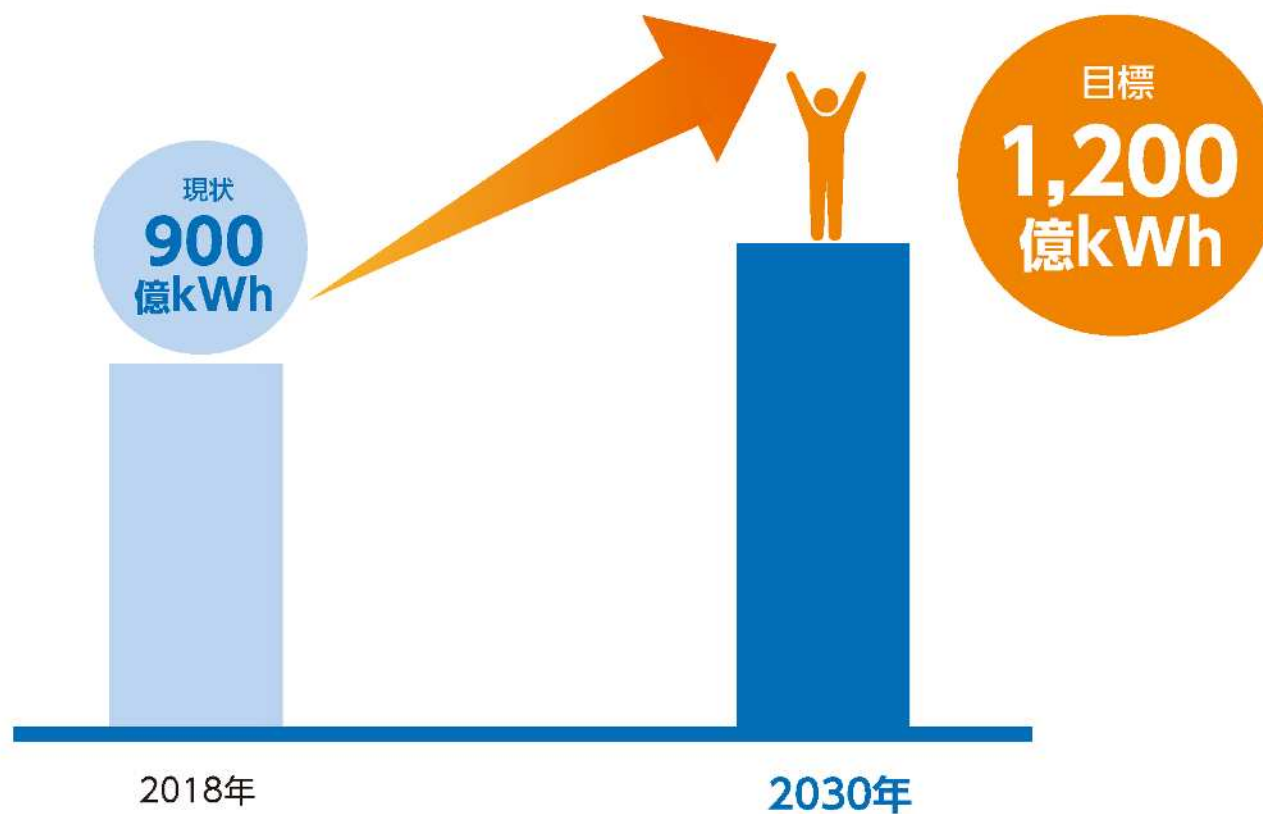
利益還元としての配当については、まずは震災前水準（50円程度/株）を目指していきます。その上で、将来的には、安定配当を基本としつつ、その他事業の成長を踏まえた利益還元を考慮することで、株主還元のさらなる充実を図っていきます。

7 九電グループ概要

7-2② 九電グループ経営ビジョン2030における経営目標（総販売電力量）

〔九電グループ経営ビジョン2030の
詳しい内容は、九州電力のホーム
ページをご覧ください〕

- ・ 国内及び海外での小売・卸売を合わせた総販売電力量1,200億kWhを目指します

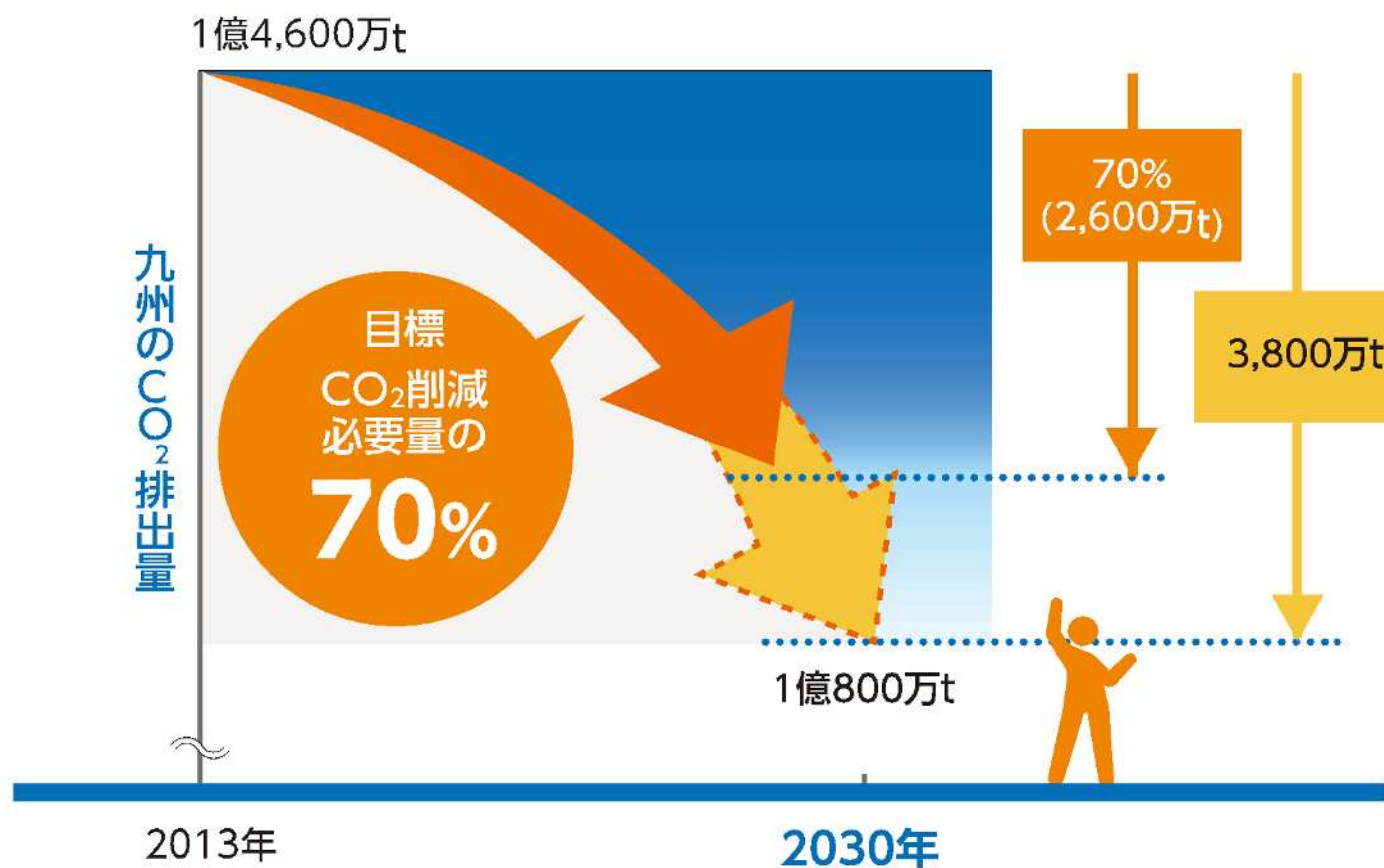


7 九電グループ概要

7-2③ 九電グループ経営ビジョン2030における経営目標（CO₂削減量）

九電グループ経営ビジョン2030の
詳しい内容は、九州電力のホーム
ページをご覧ください

- 再エネ・原子力の活用による非化石電源比率の向上や電化の推進などにより、九州のCO₂削減必要量※の70%（2,600万トン）の削減に貢献します



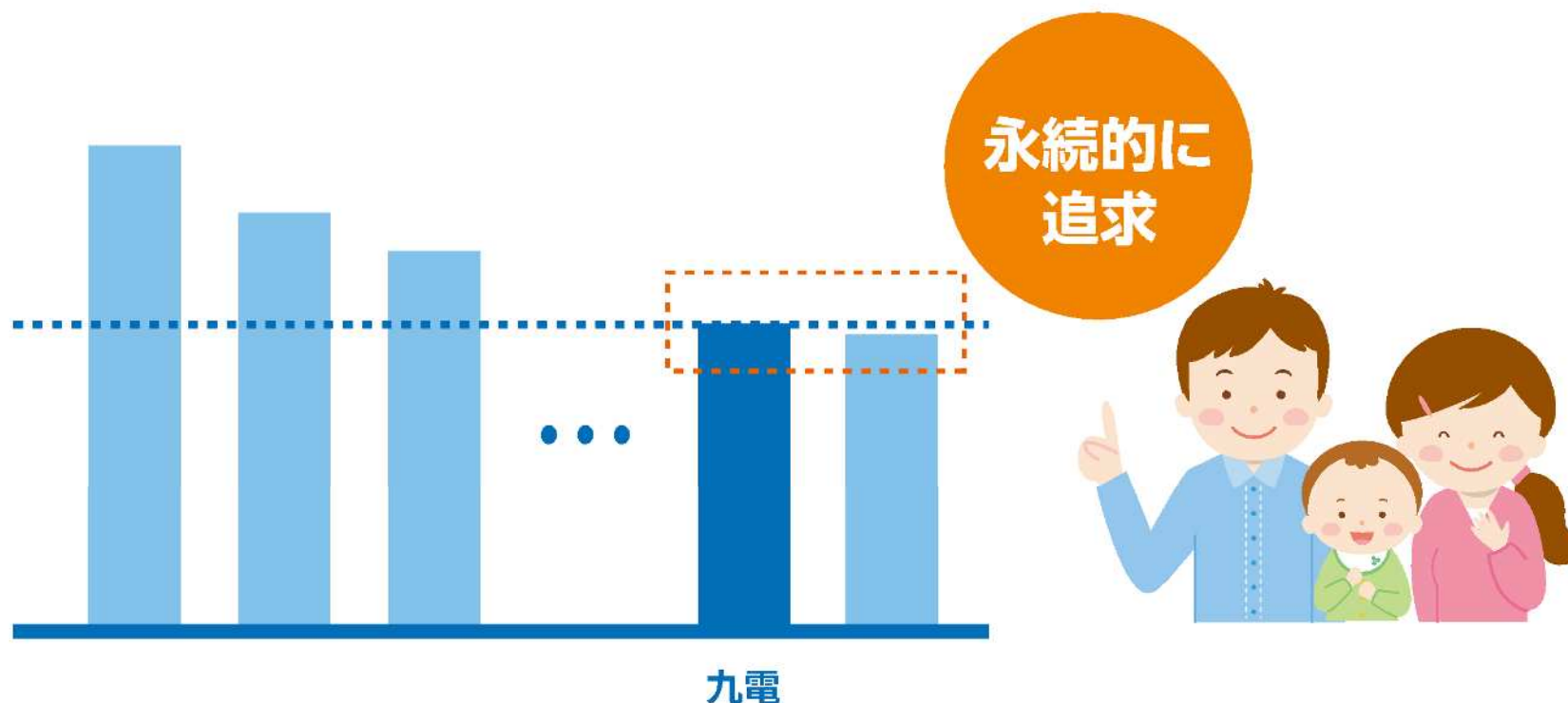
※日本の中期目標は、2030年に2013年比で▲26%⇒この目標を九州に置き換えると、2013年の九州のCO₂排出量は1億4,600万tであるため、九州のCO₂削減必要量はその26%にあたる約3,800万t

7 九電グループ概要

7-2④ 九電グループ経営ビジョン2030における経営目標（電気料金）

九電グループ経営ビジョン2030の
詳しい内容は、九州電力のホーム
ページをご覧ください

- ・ ありたい姿実現に向けた戦略の推進を通じて、トップレベルの電気料金※を永続的に追求していくことで、地域活性化に貢献し、九州とともに九電グループも成長していきます

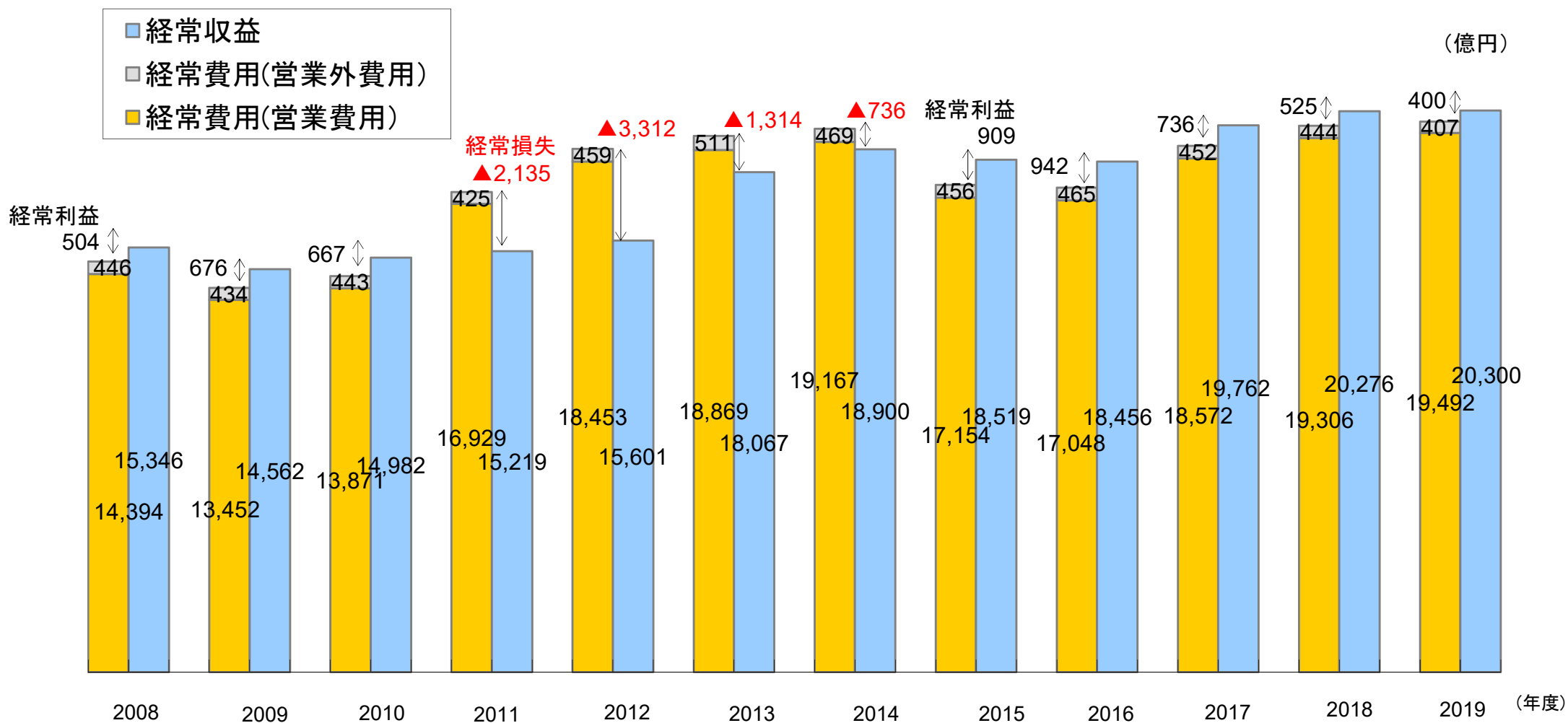


※再生可能エネルギー発電促進賦課金、燃料費調整額、消費税を除く

7 九電グループ概要

7-3 収支状況の推移（連結）

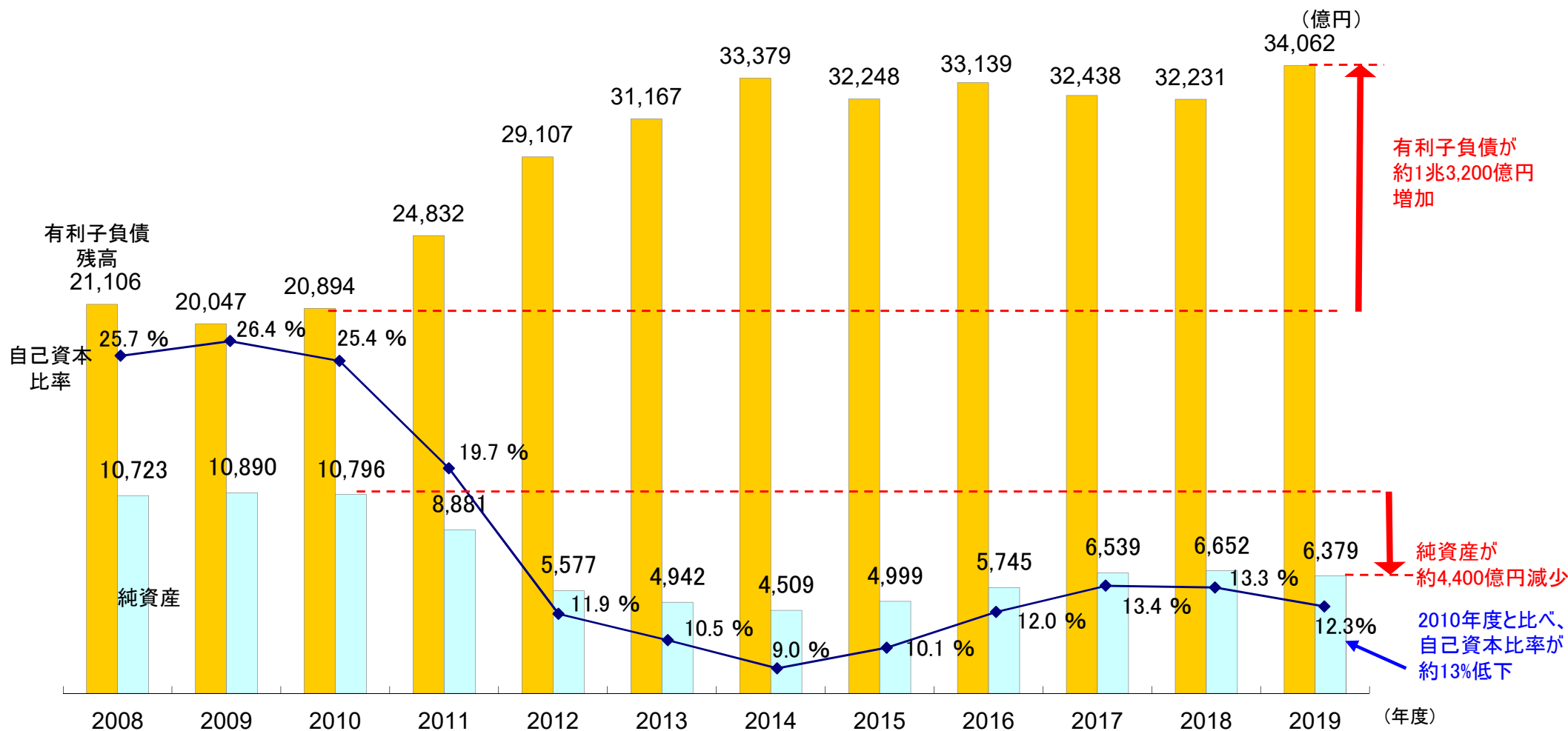
- 2019年度の業績については、グループ一体となって費用削減に取り組んでいるなか、松浦発電所2号機の運転開始等に伴う火力発電単価の低下による燃料費の減少などはありませんでしたが、電灯電力料の減少や、卸電力取引の市況低迷などによる他社販売電力料の減少に加え、松浦発電所2号機の運転開始に伴い減価償却費が増加したことなどから、前年度に比べ経常利益は減益となりました。



7 九電グループ概要

7-4 財務状況の推移（連結）

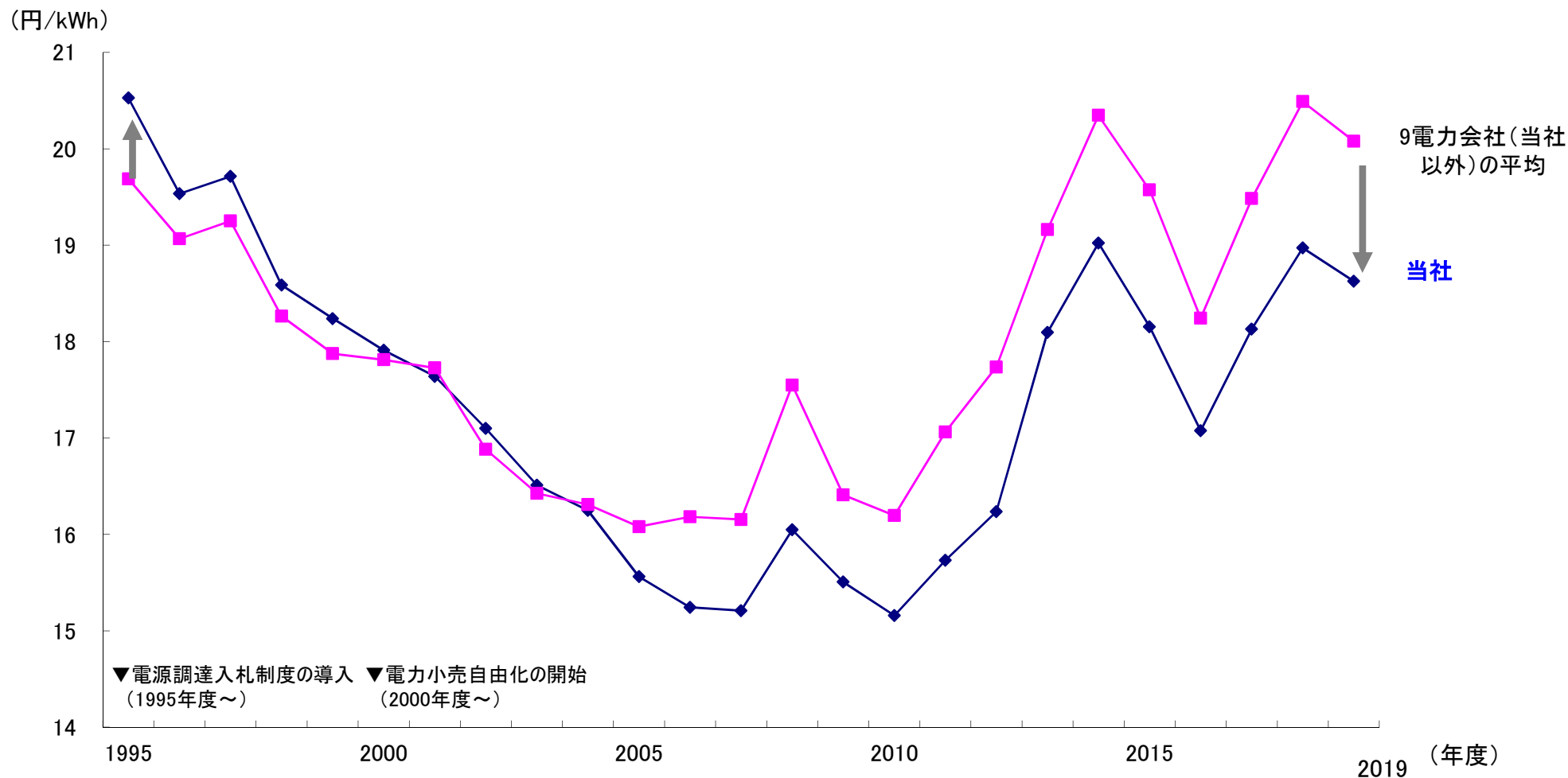
- ・ 2011年度以降は、原子力発電所の長期停止に伴う4期連続赤字により、財務状況が悪化し、自己資本比率は9.0%まで低下しました。2015年度以降は改善傾向にあるものの、自己資本比率は依然として低い状況です
- ・ 2019年度は、有利子負債が3兆4,062億円、純資産が6,379億円、自己資本比率が12.3%となりました



7 九電グループ概要

7-5 電気料金平均単価の推移（他社比較）

- 九州電力の電気料金平均単価※は、1995年度時点では9電力会社（当社以外）の平均を上回る水準でしたが、その後、継続的な経営効率化等の取組みにより8回の値下げを実施するなど、電気料金の低減を図ってきた結果、近年は9電力会社の平均を下回る水準を維持しています



※電気料金平均単価＝電灯電力料÷販売電力量

(注)・2012年度より、電気料金には再生可能エネルギー発電促進賦課金が含まれている(2020年度の賦課金単価は、2.98円/kWh)

・東京電力は連結値にて算定

出典：電気事業連合会「電力統計情報」、各電力会社の有価証券報告書をもとに作成

7 九電グループ概要

7-6 電力供給設備

(2020年3月末)

●九州電力(株)の概要

※九州電力送配電(株)が2020年4月1日に分社する前の数値を記載

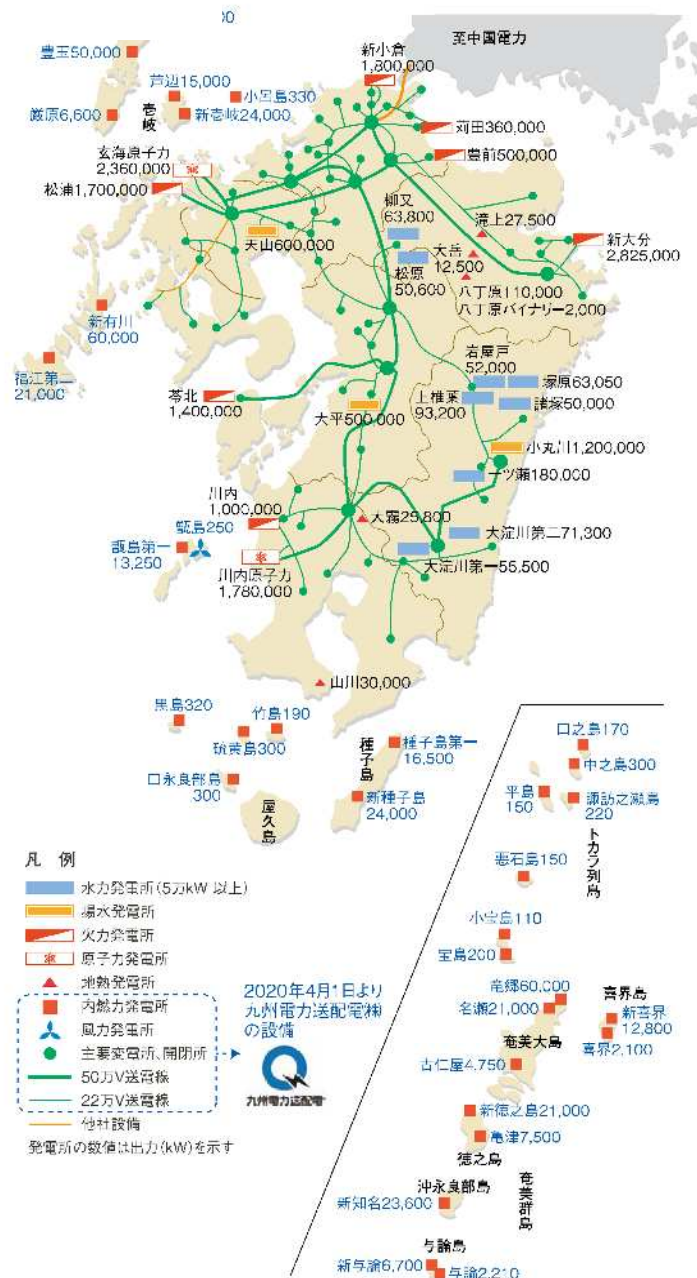
設立年月日	1951年5月1日
資本金	2,373億円
株主数	普通株式 143,054名 A種優先株式 3名

●電力供給設備

※九州電力送配電(株)の設備(2020年4月1日以降)は青字で記載

水力発電 (揚水含む)	本島 138か所 離島 5か所	357.6万kW 0.4万kW
火力発電	7か所	958.5万kW
地熱発電 (バイナリー含む)	6か所	20.8万kW
内燃力発電 (ガスタービン含む)	32か所	40.0万kW
原子力発電	2か所	414.0万kW
風力発電	1か所	0.03万kW
発電設備合計(*)	191か所	1,791.3万kW
送電線路こう長	10,900km	
配電線路こう長	142,832km	
変電所	604か所	7,529.5万kVA

(*) 端数処理により合計値が合わない場合がある





■ ご意見・お問い合わせ先

九州電力株式会社 ビジネスソリューション統括本部 地域共生本部 CSR・総括グループ
〒810-8720 福岡市中央区渡辺通2-1-82
TEL:092-726-1596 FAX:092-711-0357
E-mail: csr@kyuden.co.jp